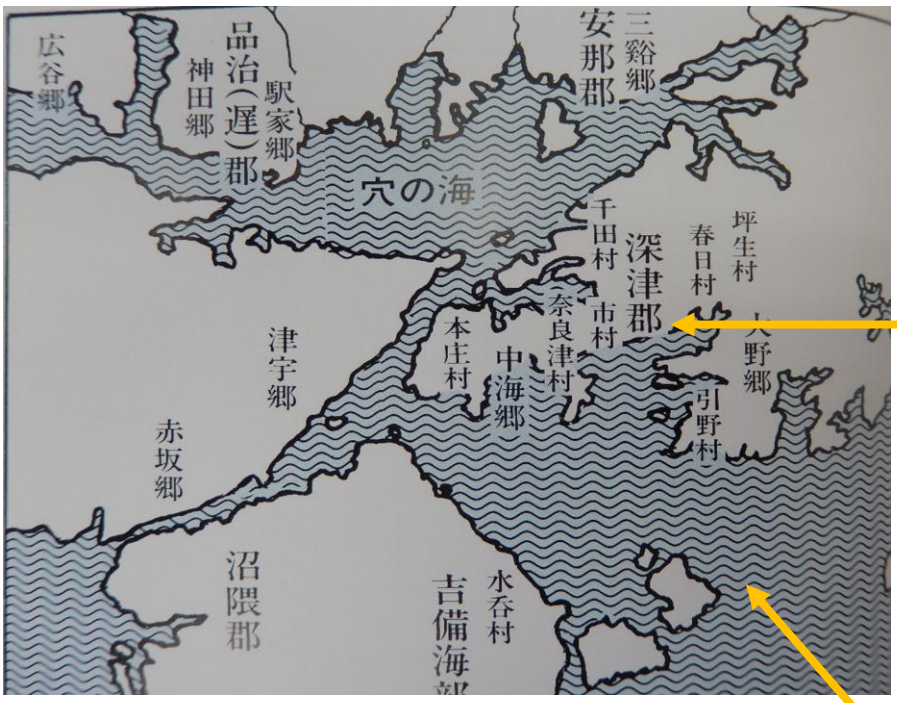
ひよしだい史跡（しせき）めぐり

2024、6. 4

吉田村の誕生



吉田村（よしだむら）
（現:春日町）

穴の海（あなのうみ）
かつて神辺平野まで深く海水が侵入し、「穴の海」と呼ばれる海が広がっていたという。

１６２３年（元和　９年）吉田新開東側築造

１６４２年（寛永１９年）吉田新開６０町歩築造

１６４３年（寛永２０年）春日池築造

１６４７年（正保　４年）市村沼田築造

１６９８年（元禄１１年）吉田村誕生

能島村と浦上村の先の土地に，吉田村が誕生しました。その土地では，山地で畑作が行われ、 農家がありました。そこは、のちに造成されて現在の日吉台団地となりました。

吉田沖がまだ海だった頃の建造物や，江戸時代のものがいくつか残っています。

半田池と池畔の遊歩道

2012年から地元の住民の方々が、これまで半田池周辺が雑木だらけだったところをみんなで草を刈るなどしてきれいにしました。

きれいにした沿道に「ソメイヨシノ」，「モミジ」，「キンモクセイ」，「ツバキ」，「マンサク」等をうえました。2024年には木製のベンチを設置して、散歩する人たちに四季を楽しめる場所となるように活動しています。

１．稲荷さん

稲荷さんは、土地区画整理事業により、近くの山林にあったものがここに移されました。

「イナリ」とは、「稲生りーいねなり」で、その神様が稲を荷なう姿から「稲荷」の文字ができたと言われており、昔から、日本民族は、お米を食べる農耕民族であり、その農耕の神様です。

ここに住んでいた私たちの祖先の人たちも、農作物の農耕の神様として祈りをささげていました。

最近では、病気の回復祈願、入学祈願、商売繁盛などいろいろな願い事がかなう稲荷さまとしてあがめられています。

世話をする人たちは、吉田地区中組、西組で１年交代で祭典を行い、清掃やこわれたところを直しながら管理を行っています。

２．石鎚さん

現在は、稲荷さんの境内にある石鎚さん（ここでは、「いしづきさん」と呼ばれています）は、本来高いところに祀られているもので、土地区画整理事業の前は、蔵王地区と吉田地区の最も高い位置にあり、そこからは半田池が真下に見えるところであり、吉田の田畑がすべて見えるところに祀られていました。

吉田地区中組、西組の住民が、年1回酒などをもちよりいろんな話をし交流しました。また、石鎚さんのお祭りを大人も子どもたちも楽しんだりしましたが、石鎚さんには、残念ながら現在の場所で我慢してもらっています。

古くから日本の山々に宿る神様に敬意を払い、また修行の中心である蔵王権現を祀るものともいわれています。

石鎚にきざまれている文字は、

「明治３４年（1901年）石鎚大権現　丑五月吉日　再建」とあります。

３．三社仏と石灯籠

旧小松地区に祀られていた三社と石灯籠。南から

① 金毘羅さん（石灯籠）

稲荷さんと一緒に山の上に建てられていた石灯籠です。

② 稲荷さん（日車天王）

小松の北の丘の上に祀られていましたが、土地区画整理事業により、現在地の赤い鳥居の奥に移され静かにおかれています。備中高松稲荷のゆかりのあるもので、日車天王（文学・学問）を祀り、合格成就、商売繁盛の神様といわれています。

③ 塞の神さま

旧小松と吉田との境目の山の中にあり、悪霊などを防ぐ役割をもった境界の神様、財の神様とも呼ばれています。

④ お大師さん、（弘法大師）

小松池の上にお祀りしてありましたが、現在地へ仲良く移され静かにおかれていて、お詣りが絶えません。小松親善会によって祀られています。

４．イシヅキさん（石鉄様）

小松地区の北方，荒神さんの山頂に鎮座しており，伊予の石鎚神社の遥拝所として石鎚講中の人々の信仰を受け，現在は小松親善会により祭りが行われている。

５．四ツ堂

吉田村から浦上村への旧浦上街道の三叉路に、藁葺きの辻堂として建立されていましたが、山陽道の建設に伴い西のほうに約１００ｍ位移動し、瓦葺きの四ツ堂となりました。浦上地区西組の人々により祭られています。

６．荒神さん

吉田東組の守護神として祭られています。団地造成のできる前は、東組の全域が見渡せる丘の上にあり、新年初詣でには、厳島神社（春日町6丁目）の帰りに荒神様に参る人の提灯が山の上まで続いていました。

現在は、団地造成で山がなくなり、下に移すことに抵抗はありましたが、組員一同が神様のいかりにふれないようお願いし、公園のかたすみに祀っています。

荒神さんは、農作物が豊かに実るよう五穀豊穣や子どもたちが元気に育つよう子孫繁栄を護る神様として、お祭りをしないことはゆるされなく、毎年の祭りと６年に１度は神楽年として神楽が奉納されていました。その後、神楽の代わりに浪曲等で祭行事としていたこともあります。

現在も、東組は９月 29 日を荒神さんの祭りとしておこなっています。

７．彼岸堂

昔、村から村に人々が行き来する道があり、その道のかたすみに、通行人が休憩できるような四本の柱に屋根がついた建物「四ッ堂」「辻堂」いうものがあり、旅人の休む場所になっていました。

このような建物は、昔から「四ッ堂」といわれ、各村に何か所かありましたが、この「彼岸堂」は土でできた壁で三方囲まれていて、雨や露がかからないようになる珍しいもので、一般の四ッ堂よりも広く、昔の記録には、旅人が世話人の許可を得て宿泊した記録もあります。

四ッ堂は福山初代藩主水野勝成公によって建てることが進められ、備後地方にたくさんのこっている貴重なもので、この彼岸堂も昔の道に面して建っていましたが、日吉台の造成工事によりうつされました。その後、平成3年(1991年)9月27日の台風19号の被害を受け、地元改築することになり、屋根も壁も昔のように文化財を守るということで建てかえました。中には昔からあった鬼瓦二つを堂の中に保存し、展示しています。

８．常夜燈（石燈籠）

福山から奈良津、蔵王、春日、坪生を通って岡山県に通じる県道があります。燈籠をつくった時代は、道も細く海岸沿いの曲がりくねった道で、それでも当時は、村と村を結ぶ貴重な道でした。

その道は、昔は海に突き出ていたと思えるところに、彼岸堂と常夜燈が祀られていましたが、区画整理事業の時に団地の進入路となるため、彼岸堂とともに今の所にうつされました。

常夜燈に書かれている文字は、

「金毘羅夜燈　氏子中　文化五年（1808 年）　辰十月日」とあります。

「おやまのこんぴらさん」の著者　高橋孝一氏によると、手城町天当神社の常夜燈の形と作り方が全く同じで、同じ人が作ったものと思われるとあります。

ちなみに天当神社の燈籠に記されて文字は、

「金毘羅夜燈　願主　土屋隈次郎　文化 戊 辰 六月吉日」とあります。

金毘羅さんといえば、海で働く人たちの間で、海の安全を祈る神様として信仰されていました。しかし、今福山周辺にある常夜燈は、およそ海とは縁の遠い山すそや平地に建てられているものがたくさんあります。

そもそも金毘羅とは、インドのことばで、「クンピーラ」といわれ、インドでは仏の教えを守るものとされていました。

日本では、山の神、水の神、川の神として田んぼのほとりや池や川の土手に祀られていました。

讃岐（現在の香川県）では、雨をつかさどる竜神として信仰され、雨が降らない年は、金毘羅で火をもらって村へ持ち帰り、この火を常夜燈にうつして各村が交代でこの灯をまもりました。

この日吉台でも、水の神様としての信仰がふかまり、金毘羅信仰が広がりました。

９．石仏（三十番）

四国八十八カ所　第三十番札所との関係です。

第三十番百戸山（どどさん）善楽寺（高知県）

善楽寺は、大同年間(806～809)に弘法大師(お大師様)によって建てられました。明治時代、一時は廃寺となりましたが、昭和5年再興しました。しかし、一足早く復興した安楽寺が第三十番札所としてみとめられていたために、それ以降は三十番札所が二ヶ所にありました。その後、この騒動に決着がついたのは、平成6年、善楽寺が第三十番札所、安楽寺が第三十番札所の奥の院と決まりました。

彼岸堂にある石仏二体（地元ではお大師様と呼ばれています）は、四国八十八カ所第三十番札所との関係が深いと思われます。

彼岸堂に安置されている左右二体の石仏には、

左側　「とさ　三十　一の宮」

右側　「三十番　古吉津町　信者中」　とほられていて、古吉津町の方々との交流はどうだったのかと思われます。

10. 石仏（十二番）

四国八十八カ所　第十二番札所との関係です。

第十二番　摩盧山 焼 山寺は、徳島県の山深いところにあり阿波（現在の徳島県）の難所とも呼ばれ「遍路ころがし」とも言われています。

※お遍路さんとは、四国八十八カ所のお寺をめぐる人のことです。

この吉田東 組 石仏二体は、四国八十八カ所　第十二番札所摩盧山 焼 山寺と関係が深いものと思われます。

それは、吉田東 組 の管理している左右の二つの石仏には、

左 側 の石仏には「十二番」

右側は「阿 洲 十二番　焼 山寺」　と石にほられています。

11. 伝承される舟つき場とカシの大木

吉田沖がまだ海であった頃、地蔵鼻と対岸の宮の端との間に舟が通っていたと言い伝えられており、北側の舟つき場にあたる吉田東組の地蔵鼻には、木の周囲が４ｍもあるカシの大木が残っていました。

広島県三次市にある天然記念物であるシラカシは、樹齢４００年くらいといわれており、当時のカシの大木も相当古いものと思われます。

12. 蔵王１２区の衝上断層

衝上断層は、断層面にそって下の古い地層が、上の新しい地層の上に押し上げられたものです。福山では、木之庄から坪生までの約14kmにわたりあり、このうち、蔵王城山露頭と奈良津露頭の二か所が広島県の天然記念物に指定されています。

この露頭は図のように、石英斑岩と砂礫層との間（図F—F’）に50度傾斜で断層が生じています。

断層が出来た時期は、第四紀更新生（約百万年前）の砂礫層ができたあとで、地質時代としては新しい時期のものです。

この断層は、中国山地や瀬戸内海、あるいは西南日本の地下構造や動きを総合的に研究するうえできわめて貴重なものです。

F

マグマが地下深くで冷えて固まったもの **花崗岩**	**石英斑岩** 石英などでできていて白っぽい	**砂礫層** 小石と砂が混じっている

F’

福山市日吉台１丁目16-27

日吉台交流館